

平成 15 年 8 月 4 日

各位

会社名 株式会社日本ユニパックホールディング  
代表者名 取締役社長 三好 孝彦  
コード番号 3 8 9 3

## 中期経営計画の生産体制再構築を前倒し実施

### - 日本製紙白老工場の抄紙機 2 台を停機 -

日本ユニパックホールディングは、子会社の日本製紙株式会社白老工場(北海道白老郡白老町)の抄紙機 2 台(1号抄紙機(段ボール原紙/ライナー)、2号抄紙機(新聞用紙))を平成 16 年 3 月に停機することを決定しました。

同工場においては、抄紙機 1 台(5号抄紙機(上質紙))を本年 9 月に停機することを既に発表していますが、さらに抄紙機 2 台を停機し、あわせてパルプ設備の再構築を行い、グループ全体の生産効率向上および固定費削減を図ります。今後、同工場は、上質紙および上質コート紙を中心としたより競争力の高い工場への構造転換を進めていきます。なお、停機する抄紙機の製品は、グループ内の工場にて引き続き生産を行い、ユーザーへの供給・品質維持については万全を期します。

日本ユニパックホールディングは、本年 4 月に発表した「第一次中期経営計画(平成 15 年度から 17 年度)」の早期かつ確実な実現を目指しています。既に実施した日本製紙子会社の株式会社クレシア開成工場(神奈川県足柄上郡開成町)2号抄紙機(家庭紙)の前倒し停機に続き、今回は白老工場抄紙機の停機を前倒しで行い、今後もグループ全体の生産体制再構築の前倒し実施を行っていきます。

#### 1. 白老工場の設備廃棄

##### 1号抄紙機の停機

主要製造品種である段ボール原紙(ライナー)は、国内産業の空洞化拡大等により内需の大きな伸びが期待できないなかで、日本板紙株式会社(現 日本大昭和板紙株式会社)亀有工場の閉鎖(本年 3 月)に伴う生産量の減少を見込んで、日本ユニパックホールディンググループ内では、なお供給能力が過剰な状態にあります。このような状況下、生産能力や収益力等を総合的に判断し、1号抄紙機(年産能力 61,000 t)の停機を決定しました。

##### 2号抄紙機の停機

主要製造品種である新聞用紙は、需給ギャップの改善、道内 3 工場での新聞用紙生産の集約等を急いでおりました。こうしたなか、グループ内での収益力や物流費等を総合的に判断し、2号抄紙機(年産能力 75,000 t)の停機を決定しました。

##### パルプ設備の再構築

1号抄紙機、2号抄紙機の原料供給設備となっているパルプ設備は停機するとともに、晒パルプ設備 1 ラインへ集約化し、生産効率向上と固定費削減を行います。

## 2. 日本ユニパックホールディンググループ生産体制再構築の進捗状況

	当初スケジュール			今回の見直し後スケジュール			
	停機台数	工場・号抄紙機	時期	停機台数	工場・号抄紙機	時期	主要銘柄
平成14年度	2台	亀有・3号抄紙機 亀有・5号抄紙機	H15.3 H15.3	2台	亀有・3号抄紙機 亀有・5号抄紙機	H15.3 H15.3	チップボール ライナー
平成15年度	4台	白老・5号抄紙機 伏木・3号抄紙機 小松島・2号抄紙機 白老・2号抄紙機	H15.9 H15.9 H15.9 H16.3	7台	<b>開成・2号抄紙機</b> 白老・5号抄紙機 伏木・3号抄紙機 小松島・2号抄紙機 <b>白老・1号抄紙機</b> 白老・2号抄紙機 <b>他 1台</b>	H15.6 H15.9 H15.9 H15.9 <b>H16.3</b> H16.3 <b>H16.3</b>	<b>家庭紙</b> 上質紙 グラビア 情報用紙 <b>ライナー</b> 新聞用紙
平成16年度	5台	白老・1号抄紙機 開成・2号抄紙機 他 3台	H16.9 H17.3	3台			
平成17年度	2台			1台			

(注)網掛け部分は、停機スケジュールを前倒しした抄紙機です。

- ・「伏木」「小松島」は日本製紙伏木工場(富山県高岡市)および小松島工場(徳島県小松島市)。
- ・ 亀有 5号抄紙機は、中国における段ボール製造新会社(浙江景興日紙)に移設、活用を行う予定です。(平成 15年 7月 22日付ニュースリリース)

本件についてのお問い合わせ先

日本製紙株式会社

取締役企画本部長代理 福永 行雄

TEL 03-3218-8036

以 上